

寄贈図書リスト

宇宙用語図鑑，二間瀬敏史著，マガジンハウス，A5判，304頁，1,800円＋税

太陽系旅行ガイド，マーク・トンプソン著，山田陽志郎・永山淳子訳，地人書館，四六判，288頁，2,300円＋税

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切，翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので，締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp 宛。

なお，原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送りください。

人事公募

標準書式：なるべく，以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など），2. (1) 所属部門・所属講座，(2) 勤務地，3. 専門分野，4. 職務内容・担当科目，5. (1) 着任時期，(2) 任期，6. 応募資格，7. 提出書類，8. 応募締切・受付期間，9. (1) 提出先，(2) 問合せ先，10. 応募上の注意，11. その他（待遇など）

国立天文台研究教育職員 (重力波プロジェクト推進室教授)

1. 教授1名
2. (1) 国立天文台重力波プロジェクト推進室
(2) 東京都三鷹市
3. 重力波天文学
4. 国立天文台，重力波プロジェクト推進室を牽引する教授を求めます。今後大型低温重力波望遠鏡 KAGRA プロジェクトの建設，コミッショニング，運用，アップグレードの各期において各実験研究グループの中核的な役割を担うとともに，重力波の検出を通じて重力波天文学という新たな天文学の分野の創成に貢献していただくことを期待します。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) なし（定年65歳）
6. 物理学又は天文学の分野で博士の学位を有するか，またはそれと同等以上の方。重力波検出器の開発に関わる研究グループまたは大型プロジェクトにおいてのマネジメント経験を有することを必須とし，また，外国人研究者と不自由なく議論できる英語力を有していることも必須とします。

7. 以下の書類（英文）を pdf ファイルとし，電子メールに添付して送付してください。

- (1) カバーレター
 - (2) 履歴書
 - (3) 研究歴
 - (4) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し，共著の場合は役割分担を記すこと）
 - (5) 主要論文3編の pdf コピー
 - (6) 職務に対する抱負と計画
 - (7) 推薦者2名以上のお名前，ご所属，連絡先（e-mail アドレス）
 - (8) 推薦書2通以上（応募者からの書類に含めず，letter を依頼した方から直接9. (1) の提出先に応募締切までに届くよう依頼してください）。
8. 2018年1月9日日本時間17時必着
9. (1) 応募書類は下記宛先までお送りください。
e-mail: apply-gwpo-prof20180109@nao.ac.jp
メール件名は「Application for Professor of Gravitational-Wave Project Office」とすること。
(2) 国立天文台重力波プロジェクト推進室長 Prof. Raffaele Flaminio
e-mail: raffaele.flaminio@nao.ac.jp
※メール連絡のみ
メールの件名は「Application for Professor」とすること。

10.

- PDF ファイル作成にあたっては解像度に注意し，あまり容量が大きくなりすぎないようにすること（メール1通につき最大10 MB程度まで）。
- 応募書類受理の後，祝休日を除き3日以内に受理確認のメールをお送りします。もしも届かない場合には，gwpo-prof20180109@nao.ac.jp へお問い合わせください。なお，国立天文台は12月28日から1月3日までは冬期休業となることをご注意ください。

11. その他:

- ・本公募の詳細は https://www.nao.ac.jp/en/contents/job-vacancy/job-20171114-gwo-en_v2.pdf に掲載されています。
- ・自然科学研究機構職員旅費規程に基づき、着任のための旅費・移転費が支給されます。
- ・国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています。(http://open-info.nao.ac.jp/danjokiyodo/)

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻教員(教授)

1. 2017年2月(第110巻第2号)
2. 川村静児(東京大学宇宙線研究所・教授)
3. 2017年12月16日

名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻教員(准教授)

1. 2017年2月(第110巻第2号)
2. 中澤知洋(東京大学大学院理学系研究科・講師)
3. 2018年1月1日

国立天文台研究教育職員(理論研究部)

1. 2017年3月号
2. 片岡章雅(国立天文台フェロー)
3. 2017年12月1日

研究会・集案案内**銀河学校 2018 参加者募集**

東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター木曾観測所(以下、東京大学木曾観測所)にて、NPO法人Science Stationの主催で、高校生対象の天文学観測体験実習セミナー「銀河学校」を開催します。「銀河学校」では、木曾観測所の口径105cmの望遠鏡を用いて天体の観測を行い、得られたデータを解析すること

で天文研究を体験することができます。天文に関する基礎知識は必要ありません。天文が大好きな方はもちろん、天文が初めてという方も大歓迎いたします。宇宙や科学に興味をもつみなさんの参加をお待ちしております。

主催: NPO法人Science Station

日時: 2018年3月27日(火)~30日(金)

場所: 長野県木曾郡木曾町三岳10762-30 東京大学木曾観測所

対象: 高校生(新高校生を含む)

参加費用: 8,000円(滞在費, 保険料)

(JR木曾福島駅までの交通費は各自でご負担ください)

応募方法: 下記ホームページにある応募方法ならびに作文テーマを確認し、必要事項を明記したものと作文を、郵便又は電子メールにてお送りください。

宛先: 〒397-0101 長野県木曾郡木曾町三岳10762-30 東京大学木曾観測所

e-mail: ggakko@sciencestation.jp

応募〆切: 2018年1月31日(水) 必着

問い合わせ: TEL 0264-52-3360(東京大学木曾観測所)

- ・応募者多数の場合は作文による選考を行います。その際、天文に関する知識よりも、参加への意欲を評価の基準とさせていただきます。結果は2月中旬に応募者全員に通知いたします。詳しくは銀河学校のホームページをご参照ください。

<http://sciencestation.jp/activities/gs.html>

*銀河学校は、「子どもゆめ基金」の助成を受けて開催されます。

会務案内**2018年度正会員会費について**

9月12日に北海道大学で開催された代議員総会にて「会費に関する細則」が改正されました。

PASJの製作をOUPに委託してから4年が経過し財政状況が引き続き改善しておりますので、正会員会費について2018年度も暫定的に15,000円に値下げしたままといたします。値下げを継続するかどうかは財政状況への影響を見ながら継続審議していきます。細則の改正部分(附則)は以下のとおりです。

附則:

2. 平成29年度および平成30年度については、第2条1項に定める正会員の会費を年額15,000円とする。

(会計理事 早野裕)

星空市場

[意見]

火星の運河について

天文月報2017年8月号, p. 545に, 火星の運河についての記述がありました。火星の運河が地球から望遠鏡で見えるためには, 望遠鏡の分解能から考えて, 運河の幅が100 kmか200 kmはないといけませんが, そのように幅広い運河が存在するとは考えられない。地球の運河のような幅が20 mとか30 mのものが地球から見えないことは誰にもわかることである。したがって, 運河は存在しない。要約すると, このような内容だったと思います。

ところが私の認識するところでは, 火星の運河(水

路) そのものが地球から望遠鏡で見えると主張した人はいなかったと思います。見えるのは, 運河からの灌漑によって運河の両側にできた緑地帯(植物地帯)だという主張でした。これでしたら地球から望遠鏡で見える幅があっても不自然ではありません。

最終的には, 探査機による写真には, 運河そのものも植物地帯のようなものも写りませんでしたので, 運河は存在しないという結論です。ただ, 運河の存在を主張した人々が望遠鏡の分解能も知らないような無知によって運河が見えるという主張をしたわけではないことは, 申し添えておく必要があると思います。

佐藤健(広島県廿日市市)

訃 報

会員の石丸友里氏は2017年11月18日にご逝去されました。満50歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード(5桁の数字と) **vol110**(6文字)の計11文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○-▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

小宮山裕(委員長), 上野悟, 岡部信広, 奥村真一郎, 押野翔一, 滝脇知也, 富田賢吾, 中村航, 萩原喜昭, 松田有一, 諸隈智貴, 山田真也

平成29年12月20日

発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献社

定価720円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359(事務所)/0422-31-5488(月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2017年(本誌掲載記事は無断転載を禁じます)